

古典的ケース／CASE 4.

36 歳の女性のケースの主訴は、不妊症であった。

彼女のガードが固く、横柄になりがちであり、自分の情報に関しては、なかなか提供しなかった。

最初、我々のほとんどは、Platina か Sepia であると考えた。

彼女は見栄を張り、硬いもので、自分を守っているように見えた。

（彼女は聖職者であった）。

彼女が堅固だが、傷つきやすさも持っていた。

動物に対しては、極端に同情的であった。

彼女は、高所でのめまいがおき、何かをすることで好転し、寒がりで、卵と甘いものを切望した。

テレビや映画で暴力シーンは見るができなかった。

イヌ、ドブネズミ、ハツカネズミへの恐れを持っていた。